

にのみやそんとくきねんかん 二宮尊徳記念館



● 歴史

にのみやそんとくは、おだわら いじん れきし のこ にん すぐ ひと
二宮尊徳は、小田原の偉人（歴史に遺る人・優れた人）です。

いま がっこう ひと せきぞう
今、学校にこの人の石像はありますか。薪（火を焚くための木）を背負
って本を読んでいる石像です。

ひと え とじだい こうき けいせい か よ じゅう おさ すぐ のうりょく も
この人は、江戸時代の後期、経世家（世の中を治める優れた能力を持
った人）・農政家（農業に関する政策をした人）・思想家（社会・人生な
どについての深い思想を持つ人。特に、その内容を公表して他に影響



を^{あた}与^{ひと}える人) でした。

二宮^{にのみや}金次郎^{きんじろう}という^{なまえ}名前^{なまえ}なら^き聞いた^きことあります^{おな}か。同じ^{ひと}人^{ひと}です。

百^{ひゃく}姓^{しょう} (今^{いま}の農家^{のうか}) の長^{ちやう}男^{なん}として^う生まれ、^{おとうと}弟^{おとうと}がふたりいました。

5^{さい}歳^{とき}の時^{とき}、暴風^{ほうふう}で酒匂川^{さかわがわ}の堤^{つつみ} (水^{みず}があふれ^だ出^ださないようにする^{とて}土手^{とて}・

堤防^{ていぼう}) が決壊^{けっかい}し家^{いえ}と田畑^{たはた} (田んぼ^たや畑^{はたけ}) が流^{なが}されてしまいました。

家^{いえ}は建^たて直^{なお}しましたが、借^{しゃ}金^{きん}を抱^{かか}えてしまい、貧乏^{びんぼう}になっ^なてしまいました^た。

12^{さい}歳^{とき}になっ^なった時^{とき}、お父^{とう}さん^めが目^めの病^{びょう}気^きになっ^なてしまい、お父^かさん^かの代

わり^{さかわがわ}に酒匂川^{さかわがわ}の堤防工事^{ていぼうこうじ}の責任者^{せきにんしゃ}を任^{まか}されましたが、まだ^{こども}子供^{こども}だっ^たの

であまり^{はたら}働^{はたら}けなかつ^たた尊徳氏^{そんとくし}は、草鞋^{わらじ}を夜^{よる}に作^{つく}ってみんなに配^{くば}ってい^ました。

14^{さい}歳^{とき}にな^り、お父^{とう}さん^{びょうき}の病^{びょう}気^きが悪^{わる}くなり、亡^なくなっ^なてしまいました。

尊徳氏^{そんとくし}は、朝^{あさ}は薪^{まき}を取^とりに山^{やま}に行^いき、夜^{よる}は草鞋^{わらじ}を作^{つく}ってお金^{かね}を稼^{かせ}いでい

ました。しかし、16^{さい}歳^{とき}の時^{とき}にお母^{かあ}さん^なも亡^なくなっ^なてしまいました。親^{おや}

がいなくなり、^{おとうと}弟^{おとうと}ふたりは^{かあ}お母^{かあ}さん^{じっか}の実家^{あず}に預^{あず}けて、^{ぼく}僕^{おとう}は^{おとう}お父^{おとう}さん^{おとう}の

^{おとうと}弟^{おとうと}、^{おじ}伯父^{いへ}の家^すに住^すむことになりました。

同じ^{おな}年^{とし}に、また酒匂川^{さかわがわ}が氾濫^{はんらん}して^{ぼく}僕^{とち}の土地^{なが}は流^{なが}されてしまいました。

^{おじ}伯父^{いへ}の家^{うぎょう}で農^{べんきょう}業^{じかん}をし^なてお^{よる}り、勉^{とくし}強^しする時^し間^{かん}も無^なかつ^たたため、夜^{よる}に読^{とくし}書^し

をして勉強べんきょうをしていました。しかし、伯父おじさんが明かりあかりに使う油つかあぶらを無駄遣むだづかいするなど、明かりあかりをつけることが出来できませんでした。そこで尊徳そんとく氏は考かんがえ、堤防ていぼうに油あぶらとなるアフラナエうを植うえて油あぶらをとって明かりあかりをつけれるようにしました。

18歳さいになり、伯父おじの家を出いでて、他の親戚ほかにしんせきの家に住すむようになりました。

そこでお米こめを作り、5俵つくひょう（1俵ひょう = 60Kg）収穫しゅうかくでき、翌年よくとしには20俵ひょうしゅうかく収穫しゅうかくして、生まれうた家いえを建て直なおし、田畑たはたを買かい戻もどすことが出来まし
た。しかし、他方たほうに行いっている弟おとうとが亡なくなってしまいました。

にのみやぞんとく いろいろ くろう おさな じ き
二宮尊徳にのみやぞんとくは、色々いろいろな苦勞くろうを幼おさない時期じきよりしてしていました。

おとな 　　のうぎょう おこな 　　かあ じっか かねえんじょ
大人おとなになってからは、農 業のうぎょうを行おこないながら、お母かあさんの実家じっかのお金援助かねえんじょ
をしていました。その後ご、二宮総本家伊右衛門跡にのみやそうほんけい えもんあと（二宮家にのみやの本家ほんけのこと）

の再興さいこうを宣言せんげんし、基金ききん（目的もくてきのために積立つみたて貯めたたお金かね）を立たち上あげま
した。

その頃ころ、親族しんぞくの助言じょげんで小田原藩おだわらはんの家老かろうの家政かせい（一家いっかの暮らくしをうまくま
とめること）の立たて直なおしを依頼いらいされ、五年計画ごねんけいかくの節約せつやくで救すくいました。

それからは、小田原藩おだわらはんの命めい（命令めいれい）により分家ぶんけ（分わかれて住すむ家族かぞく）であ

る宇津家うづけの旗本はたもと知行所ちぎょうじょ（旗本はたもととは、幕府ぼくふの政治運せいじうん営えいに必要な業ひつよう務ぎようむを担になう

官僚かんりょうであり、村むらを支配しはいする領主りょうしゅでもあります。知行所ちぎょうじょは、旗本はたもとの領地りょうち

のことをいいます。）であった今の栃木県真岡市の再興・組頭格いま とちぎけんもおかし さいこう くみがしらかく むらやくにん（村役人

ひとつで長百姓の位になり、主席再建（責任者の再建）をしました。

そのときの方法は報徳仕法として手本となり、各地に伝授をしました。

● ちいき かんけい 地域との関係

おだわら う おお くろう ちいき すく いじん
小田原で生まれ、多くの苦勞をして、地域を救った偉人。

● かんれん 関連するチェックポイント

ほうとくにのみやじんじゃ おだわらし にのみやぞんとく かみさま まつ
・報徳二宮神社（小田原市）・・・二宮尊徳が神様として祀られています。

めだかのがっこう おだわらし おだわら ちいき かか ひと
・めだかの学校（小田原市）・・・小田原で地域のために関わった人やところ。



～尊徳の教え～

- ・至誠・・・うそいつわりのない真心のこと。
- ・勤勞・・・自分や地域の向上のために自分にできる仕事に励むこと

など